

グリーンマップはこんなふうに使える！ 活動テーマ別「グリーンマップガイド」を発行

グリーンマップあいちディレクター 中川恵子(NPO法人中部リサイクル運動市民の会)

●作成の動機～グリーンマップを持続可能な地域づくりのための活動ツールとして～

愛知では、2005年の「愛・地球博」で県民参加プロジェクトにグリーンマップを取り入れたことをきっかけに活動が盛んになりました。そのことで、私たちはグリーンマップが「まちづくりの道具」として、また多くの人々を巻き込むための「参加の道具」として有効な市民のツールであることを実感しました。せっかく万博をきっかけに広がったこの愛知の活動を、万博後も継続させ、さらに発展させようと、「エコ・コミュニティづくりのための愛知県全域グリーンマッププロジェクト」を立ち上げ、地球環境基金の助成を得て、愛知県内のマップメーカーのネットワークづくり、地域のグリーンマップ活動のサポート、活動を広げるためのツール開発、グリーンマップを伝えることのできる人材育成などの活動を進めています。今回、同じようなテーマを掲げていたグリーンマップジャパンと協働し作成したのが、このテーマ別のグリーンマップガイドです。

●作成プロセス～5つのテーマで、グリーンマップ活用ノウハウを伝えるワークショップ～

このガイドで取り上げたテーマは、国内に具体的な実践例のある「環境学習」「まちづくり(商店街の活性化)」「自然保護」「エコ交通」「CSR活動」の5つです。まず、このテーマごとのワークショップを愛知県内で行いました。

◇第1回:【環境学習】

親子でつくろう!通学路グリーンマップ
(2006.8.22名古屋市中区・アスナル金山)

講師:千代章一郎(ひろしまエコピースマップ)

親子(小学3～6年生とその保護者)を対象に、自宅から学校までの通学路のマップづくりをしながら、アイコンの使い方や、親子で比較して得ることなど、このよ



左:環境学習の様相
下:レトロな街雁道商店街見学



佐久島での浜辺観察

うなワークショップのノウハウや、環境学習にグリーンマップをつかうことの意義や成果などを学びました。

◇第2回:【まちづくり～商店街の活性化】

持続できる魅力的なまちづくりとは(2006.9.18名古屋市瑞穂区・雁道商店街)

講師:丸谷博男(世田谷グリーンマップ)

雁道商店街で、地域の高齢者が集まる場づくりを通して商店街を活性化させたいと活動し、グリーンマップづくりも行っている「雁ぶら物語」の吉川富士子さんに地元の話を伺い、世田谷区梅ヶ丘商店街での成功事例のヒントを学びながら、実際に商店街を歩いてみました。

◇第3回:【自然保護】

三河湾・佐久島周辺ウォッチング、海のグリーンマップづくり体験(2006.10.8愛知県幡豆郡一色町・佐久島)

講師:大矢美紀(伊勢・三河湾流域ネットワーク)他1名

愛知県には、海をテーマに活動するグループがたくさんあります。活動にグリーンマップを取り入れている「うみがめいるかまもり隊」の中村真貴子さんが当日のプログラムをコーディネートし、実際に一色港から佐久島まで船を出し、三河湾をウォッチング。佐久島では、砂浜と磯を観察してグリーンマップづくりを体験しました。

◇第4回:【エコ交通】

クルマの街～愛知県豊田市でエコ交通を考える
(2006.11.12 ITS情報センター)

講師:右衛門佐美佐子(京都グリーンマップ)

豊田市駅前のITS情報センターを会場に、エコ交通の市



グリーンマップはこんなふうに見える！ 活動テーマ別「グリーンマップガイド」を発行

民活動から生まれた「京都自転車ルートマップ」の事例を学んだあと、駅前周辺を「エコ交通」の視点で実際に歩いてみました。駐輪場やレンタサイクルシステム、カーフリーの神社参道、街中のやすらぎスポットなど、「エコ交通」のテーマならではの情報がたくさん集まりました。

◇第5回：【企業のCSR活動】

リコー中部(株)と(株)デンソーの事例から(2007.1.23 名古屋市中区・リコー中部(株)会議室)

愛知では、企業のCSR活動の一環としてグリーンマップを活用した事例が2つ誕生しています。社内ツールとして作成されたリコー中部(株)のオフィスグリーンマップ。もうひとつは、社会貢献活動で清掃活動と併せてグリーンマップづくりを行った(株)デンソーによるイベント事例です。この事例紹介の

あと、CSR活動におけるグリーンマップの可能性をテーマに、関係者で座談会も行いました。

●このガイドへの期待

上記のようなワークショップのあと、そこでの素材をベースに、国内外の事例も添えてガイドにまとめました。グリーンマップの活動をテーマ別でまとめたガイドは、世界でも初めてのようで、NY本部のウエンディ氏からも激励メッセージとともに大きな期待が寄せられました。グリーンマップジャパンの理事メンバーが執筆陣として貢献してくれたことも、作成の大きな助けとなりました。

地域を知り地域に関心をもつ最初の一歩としてグリーンマップづくりは有効ですが、そこにとどまらず、まちづくりや自然保護など、すでに活動しているグループにも、グリーンマップという手法を知ってもらい、活動ツールとして活用してもらえたらと思います。テーマ別でのグリーンマップ活用法については、今後もさらに深めていきたいと考えています。



左：豊田市でのエコ交通WS。駅前レンタサイクル見学

右：リコー中部CSR部にて、オフィスグリーンマップの取組視察

愛媛新聞

創刊130周年 記念の GM

「環境破壊や限りあるエネルギーの問題、そして食の安全…。私たちは便利な暮らしと引き替えに、本当の豊かさや人間らしい生き方を忘れてしまっていないだろうか。こうした思いを胸に県内各地で進む試みを、自然や調和、安心を象徴する色『緑』をキーワードにお伝えする。」として愛媛新聞創刊130周年記念特集『グリーンスタイル』が2006年に連続特集されました。グリーンマップジャパンは、「親子でグリーンマップ」の待ち歩きワークショップに協力。事前の準備ワークショップも含めて、地元松山市内をテーマ別三カ所に別れて2006年7月29日(土)に実施しました。それが「グリーンマップウォークin松山」です。1コース約10人から15名の規模で実施されました。

-古い街並を訪ねる「三津」コース

-中心市街地、商店街、公共空間を訪ねる「大街道」コース

-福祉の拠点と観光・温泉の中心地を巡る「道後」コース

それぞれにドラマがあり、楽しい町歩きとなりました。

ワークショップにはたくさんのドラマがありましたが、最終の形態は具体的なグリーンマップとせず、概念的なイメージマップというかたちで掲載されました。この点は、新聞社が主催するためグリーンマップの内容で物議が起ることを避けてのことでした。公平とは何か、グループの主観とは何か、あらためて考えさせられる取り組みでした。

GMJ理事 丸谷博2006年7月

自分のまちを再発見！
グリーンマップウォークin松山
参加親子募集

自分たちが生活するまちの中心地を再発見しよう！
グリーンマップは、自分たちのまちの豊かさを再発見し、街路のデザイン提案やまちづくりのヒントを得る。子供が主体的にまちを再発見するまちづくりの第一歩です。参加費は無料です。

■(日時) 7月29日(土) 午前10時～午後4時30分

■コース
A 大街道コース
B 道後コース
C 三津コース

■参加費
参加費は無料です。お弁当は各自持参してください。

■申し込み方法
7月18日(水)まで、事務局まで申し込みください。

■お問い合わせ
事務局 公益財団法人グリーンマップジャパン
〒430-0822 松山市大街道1-1-1 1F
TEL: 075-833-1111 FAX: 075-833-1112



▲グリーンマップウォークが行われた港として栄えた三津の町

サステナブル デザイン 国際会議



Destination2006-2026併設展示に出展

2006年12月14日-16日、東京ビッグサイトにおいて、明日のサステナブル社会のビジョンをシナリオライティングで示す「サステナブルデザイン国際会議」が開催されました。この会議は、2006年12月に行われる国内最大規模の環境展示会である『エコプロダクツ2006』(昨年度来場者数14万人)の開催に合わせて実施。本会議の一部として開催する展示会「サステナブル・エブリデイ展」でグリーンマップの展示を行いました。

日本をはじめとする工業先進国においては天然資源の消費傾向、CO2の排出量、地球温暖化など、どの指標をとっても地球レベルでのサステナビリティが好転する兆しは見えてきません。本会議ではエトィオ・マンツィーニ始め海外参加者の活発な事例紹介や問題提起が行われましたが、やや東京バブリーな感じのする会議でした。

プロジェクト報告…

アイコン 第3Vers. 改編プロジェクト

GMJ副理事長
千代章一郎

■なぜアイコンを改編するのか

グリーンマップの活動で唯一の決まり事。それは世界共通のグリーンマップシステム・アイコンを使うことです。そのデザインに魅力を感じ、グリーンマップの世界にのめり込んでいった方々も多いのではないかと思います。

現在、皆さんが使っているのは ver.2 で、それを ver.3 として改編するプロジェクトをニューヨーク本部グリーンマップシステム (GMS) と GMJ が共同で取りまとめ、実質的な作業はひろしまグリーンマップが行なう形で進めました。

魅力的なグリーンマップアイコン ver.2 を、なぜ改編することになったのでしょうか。都市や環境は絶えず変化し続けています。ver.2 が制作されたのは 8 年前の 1999 年です。この 8 年間の間でも環境は大きく変化していますし、これからも変化し続けるでしょう。それに合わせて、アイコンも改編する必要があります。加えてただ環境に合わせるだけではなく、GMS として、これからの持続可能なコミュニティを形成していく上で、どのような手法、方針、思想があるかをアイコンによって表明していく必要があったからです。

なぜ GMJ がその作業に関わってきたのでしょうか。もちろん ver.2 のアイコン選定作業に京都グリーンマップの右衛門佐さんが参加しておられた経緯もありますが、これまでは欧米のマップメーカーが多く、そのため ver.2 のアイコンは、西洋の文化が色濃く反映されていました。しかし現在マップメーカーは世界中に存在し、様々な目的で

グリーンマップが制作されています。さらに持続的な環境を形成する手法においても、西洋的な手法だけでなくもっと様々な世界の手法を参照して行く必要性が高まっています。そこでもっと多様な文化を反映させるため、GMJ が中心となって作業を行いました。

■コンセプトと改編プロセス

改編におけるコンセプトは、グリーンマップ運動の思想やアイコンの哲学を明確にすること、アイコンの使いやすさを向上させることでした。

理念やアイコンの哲学を明確にすることは、ver.2 にある 11 のカテゴリーの上位に、地球・文化・社会の 3 つの大カテゴリーを設置したり、実際にどのアイコンを追加・削除するか、アイコンデザインにローカルな味を残すなどを検討していきました。

アイコンの使いやすさの向上に関しては、アイコンの数の調整や初心者用のアイコンセットの選定、アイコン定義集の整備等を検討していきました。

しかし、これらの二つのコンセプトは別々に考えて対応すれば、いいものではありません。例えばアイコンの数を増やして多様性を表現するだけでは、使いづらくなりますし、逆に数が少なすぎると ver.2 との関連があまりにもなくなってしまい、GM の理念が表現できなくなるなど、コンセプトはバランスを持って考える必要がありました。

そのためには多くの意見を聞く必要があり、改編プロセスの最初のステップ(第1ステージ)は、GMS が制作した web による意見収集と多くの場面で議論することから始めました。特に愛知万博においては、アジアハブ会議を開催し、その中の議題としてアイコン改編について話しあわれ、西洋以外の意見も多く聞くことができとても有意義だったと思います。

現在は第2ステージが終了した段階で、改編の方向性の整理と取りまとめ、たたき台となる ver.3 アイコン表を制作しました。以下はそのアイコン表です。

今後はアイコンの定義集の整備の作業、web を利用した世界のマップメーカーからの意見収集、第3ステージとしてアイコンのフォント化、第4ステージとしてプロモーション活動を進めていく予定です。

第2ステージの成果としてのアイコン表:グリーンマップの思想、アイコンの哲学、さまざまな文化が反映されたver.3の試作品。今後はこれをもとにさらに議論を深めます。

Image for Ver.3

Nature				Society				Culture																																			
Nature: Land and Water	Nature: Flora	Nature: Fauna	Renewable Resources	Infrastructure	Toxic Hot Spots Pollution Sources	Mobility	Information	Culture & Design Building, facilities and Historical area	Culture & Design Art, intangible culturer and spirit	Individual	Corporation organization																																
Wildlife viewing	Water wildlife	Bamboo Forest/ Alternative Fibers	Wildlife Center	Native Plants	Community Garden	Gleaning area/fishing	Open space	Wastewater Treatment facility	Misunderstanding	Incinerator	New Icon (Greenhouse Gas Reduction Resource)	New Icon (Deforestation/ Falid Development)	New Icon (Climate Changed Area/ Natural disaster)	New Icon (Vehicle Sharing)	Eco Informant site	Def	Combine title with Public Library Community Center significant organization	Public Square/ Plaza	Public Transportation	Park and Ride	Alt Fuel/ Vehicle Site	New Icon (Green Ma Supporter)	Protest Point	Eco tourism Resource	Green Ma Supporter	Building, facilities and Historical area	Cultural Site	Eco Design Planning	Def	New Icon (Peace/ memorial site)	New Icon (WC)	Park land / recreation site	Senior Frindly site	New Icon (Cultura performance)	New Icon (Lively spot)	New Icon (Repair site)	New Icon (Flea Market)	New Icon (Locally Owned Community Bussiness)	Green At Work/Def /Volunteer Here	New Icon (food bank)	New Icon (poor labour practices)	New Icon (Environmentally responsible company/Social/ political Resource)	New Icon (Good Air Quality)

赤いアイコン:新しくデザインされなおされたもの
丸や四角で囲まれたアイコン:ver.2とは意味内容・名前が異なるもの
四角で囲まれた赤いアイコン:新しく追加されたアイコン

干潟の保護運動にグリーンマップを活用

伊勢・三河湾流域ネットワークの皆さん



「伊勢・三河湾流域ネットワーク」は、2005年の愛知万博「愛・地球博」でグリーンマップづくりに参加。日本で初めて海の再生を訴える「海のグリーンマップ」を制作した。会長の辻淳夫さんは、名古屋市の藤前干潟の埋め立てを断念させたグループのリーダーだ。

2002年11月、名古屋市のゴミ埋立て予定地、藤前干潟がラムサール条約登録にこぎ着けたのを機に、市はかねてからゴミ埋立計画のあった藤前干潟の埋め立てを断念。これを機に名古屋市のゴミ行政が大きな変換を迫られたことは、ご存じの方も多いだろう。辻さんは、藤前干潟の次はかねてから環境汚染が気になっていた伊勢湾に力を注ぐと、2003年「豊かな海を取り戻したい人の交流会」を結成。2004年に伊勢・三河湾に注ぐ120河川の河口で、海の貧酸素状態を計測する「海の健康診断」を企画。会員、大学研究者、一般公募の市民など100人余りが参加し、海の健康度を示すデータ作りを行った。その後、海の問題意識から、2005年

は考える。「海の問題は、そこに流れ込む川の環境や保水しておく森の環境が大きく影響してきます。2001年の東海豪雨で矢作川があふれ、死者も出たことは記憶に新しいと思いますが、あれも結局、林業が成り立っていないために川の源流部の人工林の放置が、保水力を失わせ大きな災害となりました。スポット的に自然環境を守るグループは多いのですが、流域全体で森、川、里、海を眺めようという会は全国的にも珍しいと思います」と辻さん。

●六条潟グリーンマップ

「愛・地球博」の時、ウミガメやスナメリの保護グループを中心に、海の危機を訴える「海のグリーンマップ」にまとめ、愛知県館で1ヶ月展示やワークショップを行い市民の関心を引き寄せた。なんと三河湾には、イルカの仲間 - スナメリが1000頭ほど生息しているし、ウミガメの産卵地もある。今回制作した「六条潟グリーンマップ」は先のマップの第二段ともいえるもので、三河湾東端の六条潟の埋め立て見直しを訴えたものだ。この約400haの干潟は、美味しいことでつとに有名な愛知県産アサリの稚貝の95%が育つところ。ここを埋め立てれば干潟や浅場が減少するだけでなく、海の流れが遮断され、残った海も常によどんだ状態となり、アサリは生息できない。

「六条潟は正直言って、ヘドロで臭くてドロドロしているのですが、汚いから入らないとなると、益々みんなが行かなくなって、益々近寄らなくなるから、どんどん悪くなる。埋め立て反対!と強面に叫ぶのではなく、少しでもいい所を見つけて、お楽しみも加えながら観察会を開催しています。」と大矢さんは語る。つい最近の観察会は「味わって知る私達の海」と題して、みんなでアサリや魚を調理して食べるお楽しみを付け加え、若いお母さんにも好評で主旨もよく理解してもらえた。ワークショップでは、指導員の説明を受け身で聞くだけでなく、自ら観察した海を心にとどめてもらうために、いつ

もグリーンマップを作ってもらおう。マップに記された海辺の様子は海の健康度を雄弁に物語っている。

●一般市民の感性を訴える地図
自然保護活動や環境汚染の運動の拠り所は、今まで科学的データや統計が道具として使われてきたが、グリーンマップを作ってみて辻さん達には気付かされたこ

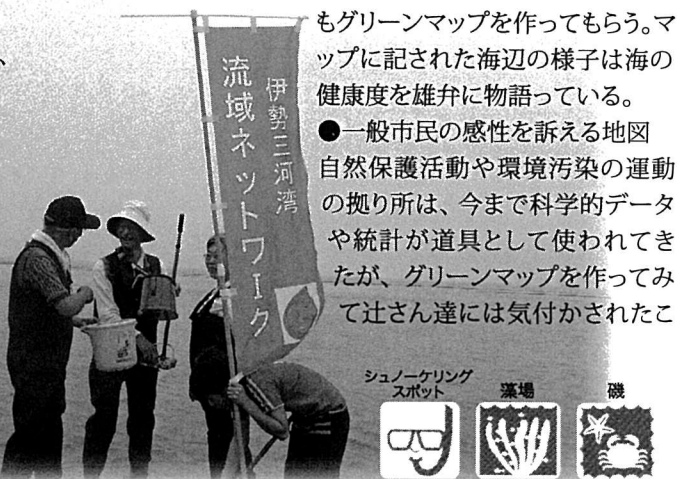
下:佐久島で作成したGMを発表
右:観察会の打合せをするメンバー
右下:海の健康度を観察する子供達



1月23日「伊勢・三河湾流域ネットワーク」が発足した。活動は、豊川、矢作川、庄内川、木曾三川、鈴鹿川、宮川を中心に、流域面積約18,000平方キロメートル、流域人口1100万人くらいのエリアの環境健康診断・観察会、環境教育、研究会、交流会、行政への要望書提出など多岐にわたっている。現在会員95名、平均年齢57才。2007年3月完成の「六条潟グリーンマップ」を作成した大矢美紀さん始め、メンバー4人の方にお話を伺う。

●行政の縦割りを市民が繋ぐ

伊勢湾・三河湾は連関する生態系で繋がっているが、行政では縦割りになる問題を、市民なら繋げることができると会



海のローカルアイコン
—制作—
グリーンマップあいち&
うみがめいるかまもり隊



松井賢子さん



石井宏和さん



辻淳夫さん



今枝久さん



長谷川靖徳さん



とがあった。「水質のデータにしてもだんだん難しくなってきた、運動のベテランや学者さんは分かるかもしれませんが、一般市民にとってはその土俵で話をするのは難しい。そうするとごく限られた人だけに通じる話になってしまって、運動として広がっていかない。グリーンマップは一般市民にも分かる五感による環境評価を引き出して訴える所がツールと

して使えるなあと思いました。」「市民がどう感じるか -- どんな風に気持ちが良いか、風景がいいのか、匂いがいいのか、生物とふれ合うのがいいのか。煙がいやなのか、貝の死骸がいやなのか、騒音、海が汚れて死んでいくのがいやなのか -- そういう評価基準を引き出し、世の中に訴えたい気がする。又、そういう視点を自然の健康診断プログラムに取り入れていきたい。」と皆さんは語ってくれた。

※「六条潟グリーンマップ」は次ページで紹介しています。

■ 世界のマップから

「グリーンアップル(NYC)のミミズ」

マンハッタンのコンポストマップ

2006年12月9日、ユニオン・スクエア・グリーンマーケットで、グリーンアップルマップの最新版、マンハッタンのコンポスト情報、関連サイトを収録したコンポストマップが発表された。

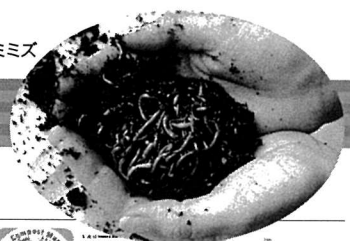
この地図は、グリーンマップ・グローバルオフィス (Green Map System) とローワー・イーストサイド・エコロジーセンター (Lower East Side Ecology Center) が共同制作したもので、ニックネームは「グリーンアップルのミミズ! -- マンハッタン・コンポストマップ」。紹介しているコンポストシステムは、エコロジーセンターが普及活動を行ってきたもので、赤ミミズを利用したもの。「忙しいマンション暮らしのニュー Yorker でも生ゴミを分別し、簡単に地味豊かな土に変えることができます。し

コンポスト関連の催しの模様



from upper left: Compost Map research, Our Team at work in the garden; Shooting the cover; Worms bin demo at our office warning party; 2 scenes from the Map's debut at Greenmarket

コンポストに使用する赤ミミズ



地図面には、コンポストを行っている学校や教育機関、人々がゴミを捨てにいてもよいコンポストを設置してあるコミュニティガーデン、オンラインの情報提供サイト、グリーンマーケット、環境配慮型建築、家庭ゴミ処理基地などが収録されている。地図裏は、「何故ニューヨークにコ



ンポストがいいのか?」の項で年間 100 万トンにも及ぶニューヨークの家庭ゴミの現状を訴えている他、「始めよう!コンポスト!」では、ライフスタイルに合わせた簡単なコンポスト実践マニュアルも紹介。また、ゴミの種類によって、容器に入れていいもの(果物や野菜カス、ティーバッグ、パン、卵の殻、植物の葉っぱなど)、入れてはいけないもの(肉、魚、油、集成材、犬猫の糞など)が、細かくリストアップされていて分かりやすい。

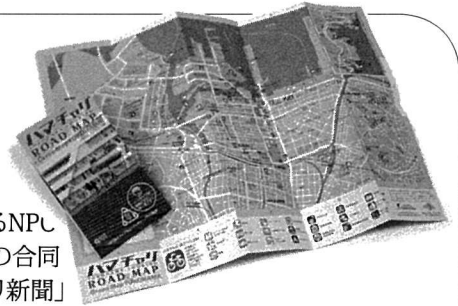
印刷された 5000 部のマップは、無料で配布されたが、下記サイトからダウンロードできる。スペイン語ヴァージョンも予定されている。ニューヨークのコンポスト率をあげる流れ作りに、このマップは大いに一役買いそうだ。

ダウンロードはこちらから:

<http://greenmap.org/greenhouse/node/137>

new map……ハマチャリ・ロードマップ(横浜市中区)

1. 発行日:2006年5月1日
2. 企画・発行:NPO法人ナイスヨコハマ+グリーンマップ横浜
3. 問合せ・入手法:info@coollab.org 090-1992-2676(高橋晃)
4. 概要:放置自転車をしサイクルしたレンタサイクル「ハマチャリ」を運営しているNPO ナイスヨコハマと共同で制作。グリーンマップと「ハマチャリ・ロードマップ」との合同版で、みなとみらい地区含む横浜市中区ベイエリア版です。裏面は「ハマチャリ新聞」になっていて、健康と環境、観光に関する記事を掲載しています。サイズはA3版ジャバラ折り(折畳みサイズ=8.5×15cm)でポタリングに使いやすいコンパクトサイズです。



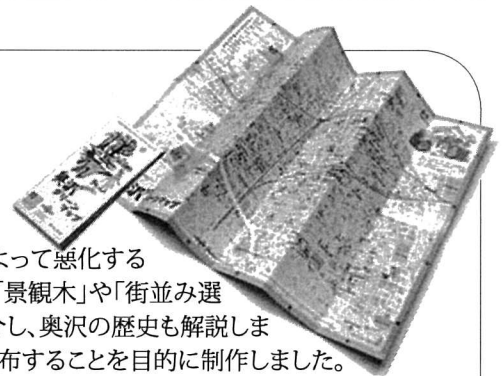
new map……舞岡柏尾ウォーキンググリーンマップ(横浜市戸塚区)

1. 発行日:2006年5月28日
2. 企画・発行:横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ+グリーンマップ横浜
3. 問合せ・入手法:rie-n@yk.rim.or.jp (中村利恵)
4. 概要:2006年9月に舞岡中学校の福祉委員会と舞岡柏尾地域ケアプラザの構成員や地域の皆さん39名で4つのコースに分かれてフィールドワークを行いました。この活動がとても地域の人たちにとって好評だったため、手書きの大きなマップを印刷し、2006年5月に開催された舞岡柏尾地域ケアプラザまつりで配布しました。ケアプラザで高齢者用福祉マップにグリーンマップの要素を入れたものを調査し、作成中です。



new map……奥沢グリーンマップ(東京都世田谷区)

1. 発行日:2006年11月1日第1版
2. 企画・発行:土とみどりを守る会
3. 問合せ・入手法:horuichi@tamabi.ac.jp (堀内正弘)
4. 概要:土とみどりを守る会(世田谷区登録風景づくり団体)は、ミニ開発等によって悪化する住環境を守り育てるための活動を1998年から推進し、景観に寄与している「景観木」や「街並み選奨」などを選定しています。「歴史あり」や「すぐれた町並み」サイトを多く紹介し、奥沢の歴史も解説しました。まちづくり関連の団体や組織等も知ってもらい、住民と訪問者に広く配布することを目的に制作しました。



new map……六条潟グリーンマップ(愛知県三河湾)

1. 発行日:2006年12月1日
2. 企画・発行:伊勢・三河湾流域ネットワーク
3. 問合せ・入手法:a-ohya@sc.starcats.ne.jp (大矢美紀)
4. 概要:愛知県のアサリの稚貝の90%以上を三河湾奥の六条潟で採っています。干潟には水の浄化作用があり、干潟に続くアマモ等の海草や海藻が生える浅場は魚やエビが生まれ育つ大切な「海のゆりかご」。浅場は又大型魚が入って来られず、魚の赤ちゃんにとってとてもすみやすい場所です。海の環境を守ろうといいながら、一方で大切な干潟・浅場を埋め立てようという矛盾した動きがあることを皆さんに知っていただきたいという思いでこのマップを作りました。



2006年度登場したローカルアイコン



休憩場所
ベンチ



オープン
カフェ



駐輪場



赤潮・青潮



ウミガメ



干潟



イルカ・ジュラ



磯



藻場



シュノーケリング
スポット



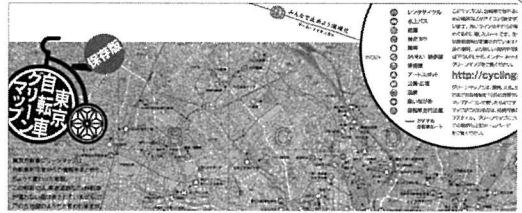
伝統産業
緑物(青)



伝統産業
漆(赤)

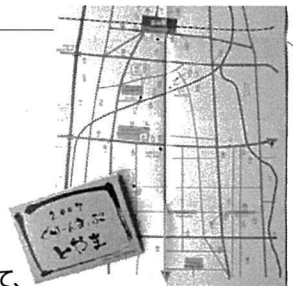
new map.....東京自転車グリーンマップ(東京都)

1. 発行日: 2007年1月7日
2. 企画・発行: アーバンエコロジー東京
3. 問合せ・入手法: horiuchi@tamabi.ac.jp (堀内正弘)
http://cyclingmap.jp/map.htmlからダウンロードできます。
4. 概要: 東京の都心部を中心に、自転車の利用者に役立つ情報だけを満載。情報収集とそのフィルタリングにウェブを活用し、登録した自転車利用者が参加し、2006年4月にはオンライン版「東京自転車グリーンマップ」を公開。印刷版は朝日新聞の折り込みタブロイド判として、都心部を中心に約29万部配布されました。標高差を色分けで表示し、「おすすめ自転車ルート」は赤線で示され、極力旧道などの裏道を紹介しています。



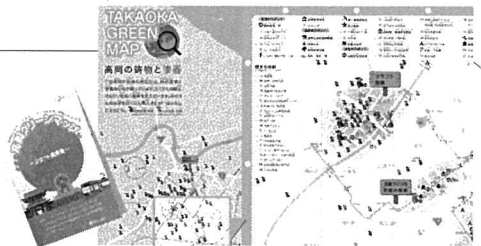
new map.....ぐりんまっぷとやま(富山市)

1. 発行日: 2007年3月20日第1版
2. 企画・発行: 富山大学経済学部龍ゼミ+石川県くらしと環境を考える会(OLEI)
3. 問合せ・入手法: longshix@eco.u-toyama.ac.jp (富山大学経済学部龍世祥ゼミ)
4. 概要: いつもは気付かない街中の自然や文化を人々に知ってもらいたいと、富山市の中心部を調査し掲載。富山大学の学生を中心に、環境やコミュニティを直接学び考える学習の一環として、変わりつつある市中心部を見つめました。海と山に囲まれた自然豊かな街、中心地を流れる川や多くの噴水、そして市電・ライトレールなどが、このマップの特徴となり、富山再発見のツールとして、様々な人に手にとってもらいたいと願います。



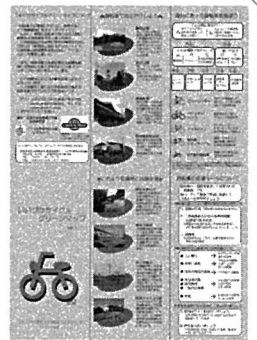
new map.....高岡グリーンマップ-クラフト探検編(富山県高岡市)

1. 発行日: 2007年3月28日
2. 企画・発行: 富山大学高岡短期大学部 平成17年度現代GP
3. 問合せ・入手法: watanabe@tad.u-toyama.ac.jp (長柄・吉本)
4. 概要: 高岡は「ものづくりのまち」。まちを歩くと伝統産業に関わる場所や物に出会えます。このマップは鋳物と漆器を中心とする高岡の伝統産業に触れるまち歩きに最適です。同じデザインですが、色を変えて、伝統産業を表す二つのローカルアイコンを作りました。伝統産業だけでなく、歴史、文化、パブリックアートを大切にする高岡のまちに親しんでいただきたいと思っています。このマップは、短大の授業の一環として、主として学生の手により制作されました。



new map.....いづかサイクルグリーンマップ Vers.1(福岡県飯塚市)

1. 発行日: 2007年3月31日
2. 企画・発行: 近畿大学産業理工学部依田研究室+いづか環境市民会議(こすみんず)
3. 問合せ・入手法: k-seibi@city.iizuka.lg.jp (いづか環境市民会議こすみんず)
4. 概要: いづか環境市民会議は、全国温暖化防止活動推進センターの『平成16年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業』に採択されましたが、その一つに、車利用から自転車・徒歩・公共交通機関利用への転換がありました。そこで普段通学に自転車を利用している市内の高校生に対して行った「自転車アンケート」を元に危険箇所を割り出しアイコンで表示しました。飯塚市の観光案内、自転車の選び方や自転車の交通ルールなども載っています。



new map.....大須エコマップ(名古屋市大須商店街)

1. 発行日: 2007年3月31日
2. 企画: 大須エコマップ作成会 発行: 名古屋市
3. 問合せ・入手法: 名古屋市環境局地球温暖化推進室 052-972-2693
又は中部リサイクル運動市民の会 052-339-5541
4. 概要: 名古屋の下町。近年地元の人々の努力のお陰でレトロで親しみやすい街として若者にも人気のある新名所です。このマップは、環境に優しい買い物の輪を広げようと活躍している市内の団体・個人で制作されました。リユースやリサイクル、フェアトレードや自然食品店などエコなお店を収録。これらの店でエコマネーシステムを取り入れました。





●Newcomers, Welcome!

2006年度(2006.4~2007.3)参加登録された所です。

●地域など

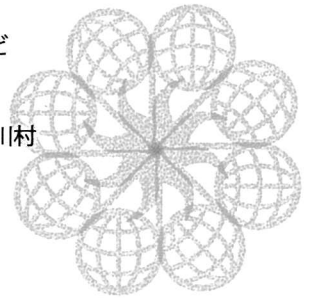
京都市東山区
 横浜市青葉区
 岐阜県多治見市
 大阪府吹田市
 岐阜県大野郡白川村
 神戸市
 滋賀県彦根市
 愛知県犬山市
 富山県魚津市

●グループなど

京都女子大生命環境研究会
 あおばみん運営委員会
 多治見ローターアクトクラブ
 すいた環境学習協会
 白川郷自然共生フォーラム
 グリーンマップ☆つくり隊
 滋賀県立大近藤研究室
 犬山市民と犬山のグループ
 にかわスローマップ制作委員会

●テーマなど

東山区の緑環境
 防災・子育て支援・医療・自然・史跡など
 地球環境と福祉
 バリアフリー・安全・安心
 生活風景や自然環境、もうひとつの白川村
 開発が進む神戸の現状
 地域の環境配慮度と大学環境
 街の姿発見
 地産地消



●テーマ別「グリーンマップガイド」ができました。

今号で紹介したグリーンマップあいちとグリーンマップジャパンが協働で制作したテーマ別のグリーンマップガイドができました。グリーンマップは地図を作るだけでなく、様々な目的を達成するためのユニークなツールとして利用することができます。

このガイドブックでは、「環境学習」「まちづくり」「自然保護」「エコ交通」「企業のCSR」の5つのテーマに、グリーンマップを手法として使った先進事例を取り上げ、「グリーンマップって、こんなふうに使えらんだ!」と思っただけの、ヒントやノウハウを収録しました。あなたのグループの活動に是非お役立て下さい。

★A4 サイズ、フルカラー、40P ★価格：800円 ★お問い合わせ：ぐりんまっぷあいち(Tel: 052-339-5541) 中川恵子まで



●グリーンマップ登録のシステムが変わります

これまでグリーンマップへの参加登録事務は、GMJが代行していましたが、本部の強い要請により、7月からグリーンマップへの参加登録は直接本部ウェブサイト greenmap.org/greenhouse から英語で申請して頂くようになります。参加都市も全世界で400を超えた現在、本部やハブの事務作業の効率化をはかり、より創造的な活動をするためです。既に登録済みの方も、このウェブサイトユーザー登録を行って下さい。まず本部ウェブサイト <greenmap.org> にアクセスしてみてください。

●新しいロゴマークができました。

グリーンマップ制作に際して、本部ニューヨークのロゴを始めとするクレジット表記をして頂いていると思いますが、この度新しいロゴができました。また、キャッチコピーも同時に設定しました。

「地球を見つめ、地域を描く!」- 日本語表記、「Think Global! Map Local!」- 英語表記となっています。

ロゴ、及びキャッチコピーは 新しい本部ウェブサイトユーザー登録をした後、Resources からダウンロードできます。よろしく。



■事務局からのお願い

1. Greenhouseの導入に伴い、年会費は基本的に本部に直接お支払い頂きますが、希望があればグリーンマップジャパンが送金を代行します。年会費の額は本部ウェブサイトにて自動計算されます。この資金は、ウェブサイトの管理、経済的に恵まれないところでのマップ作り支援、ハブの運営などに使われる貴重な資金です。どうぞご理解下さい。詳細別紙
2. マップが完成しましたら、速やかに事務局までお知らせ下さい。その際、ホームページに載せる画像をご用意下さい。
3. グリーンマップの全容がわかる「グリーンマップ・アクティビティガイド」好評発売中。1冊1000円。事務局まで。
4. グリーンマップの紹介パンフレットをご用意いたしております。事務局まで。

●編集後記: 今年には沢山のマップが完成しました。同じグループが異なる目的で、マップを作るケースも多くなり、グリーンマップの利用のされ方もかなり多様になってきました。マップの切り口の多様さは、持続可能な社会へのアプローチの仕方が、いろいろあるということ。グッドアイデアが盛り込まれ、地域性や文化性が表れているマップは、大変面白いですね。(よ)

●Green Map Harmony

- 発行日: 第2号 2007年5月31日
- 企画・発行: 特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン
- 編集人: 右衛門佐美佐子
- デザイン: 田中裕子



GREEN
MAP
JAPAN

■グリーンマップジャパン 事務局
 〒606-8225 京都市左京区田中門前町90
 tel: 075-712-8834 fax: 075-702-6223
 e-mail: info@greenmap.jp
 URL: <http://www.greenmap.jp>



グリーンマップはGreen Map SystemTMの商標であり、アイコン及びロゴには著作権があります。禁無断転載・複製。
 著作権: Green Map[®] System, Inc. 2005.